

刊行にあたって

このたび『月刊デンタルダイヤモンド』の増刊号として、『口腔外科のスタートライン——開業医が押さえておきたい基本手技』を刊行する運びとなりました。

拔牙をはじめとする歯科小手術は、開業歯科医院での日常臨床において最も頻繁に行われる口腔外科処置ですが、一口に拔牙といえども切開や粘膜骨膜弁の剥離翻転から骨削除、縫合などの多様な手技が求められます。したがって、卒後に大学や総合病院などの日本口腔外科学会が定める研修施設での専門的な研修を受けた歯科医師を除いては、歯科小手術に苦手意識をもつ臨床家は少なくありません。

一方で、歯科小手術に自信をもっていても、その手技や処置、術後管理が果たして現状の標準的治療法と同じか否かについて疑問を感じている歯科医師も少なくありません。無論、患者の治療経過と結果がよければ、それに越したことはありませんが、やはり口腔外科手術には標準的な基本手技や手法が存在します。さらに臨床経験の浅い若手歯科医師にとっては、将来的に身につけておくべき口腔外科処置の研鑽をどのように積んでいけばよいか、悩むケースもあると思います。

現在、一般社団法人日本歯科専門医機構により、口腔外科専門医をはじめそれぞれの歯科専門領域において、適切な研修教育を受け、十分な知識と経験を備えて、患者（国民）から信頼される専門医療を提供できる歯科医師の認定制度が始まろうとしています。そのためには、口腔外科処置や歯科小手術の基本の習得と再確認によるアップデートがたいへん重要であると思われまます。

そこで本増刊号では、一般歯科臨床医がぜひとも精通しておきたい口腔外科処置において、まずは身につけるべき基礎知識およびテクニックを幅広く網羅すべく、口腔外科臨床の最前線で研鑽にあたる若手臨床家と経験豊富なエキスパートの混合編成により、執筆を展開しました。口腔外科処置に関してどのようにステップアップ・レベルアップしていけばよいか、そのヒントやアドバイス、勘どころをとりまとめ、読者の臨床にお役立ていただけるよう企画・編集をしておりますので、ぜひ本増刊号を診療室の手の届く場所に携えていただければ望外の喜びに存じます。

最後になりますが、本増刊号の刊行にあたり多大なお力添えをいただいた株式会社デンタルダイヤモンド社編集部の山口徹朗編集長、田村昭一副編集長、大浦凌平氏、編集をともに担当くださった森 一将先生、新名主耕平先生にこの場を借りて深謝いたします。

2022年初夏の吉日に出雲より

編集委員 管野貴浩